

授業科目	発達障害作業療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中島そのみ (保健医療学研究棟 E509 号) e-mail : sonomi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石泰仁、中村裕二		
概要	人間の正常発達を理解し、発達障害児の評価に必要な正常な発達段階を理解すると共に、発達期に生じる種々の障害の問題点とそれらに対する作業療法の適応・その実際について学ぶ。特に発達障害児に対する評価全般にわたる知識と、作業療法治療に至るプロセスについて基本的な知識と技術について学習を行う。		
到達目標	1. 発達障害の基本的な概念が解る。 2. 発達障害領域における作業療法評価の知識を習得する。 3. 評価結果から作業療法治療に至るプロセスの概略を説明できる。		
関連科目	人間発達学1・2、運動学2、作業療法評価学2、発達障害作業療法治療学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	小テスト・提出物	20%	
	定期試験	80%	
教科書	①社団法人 日本作業療法士協会 監修 [2010 年] 「作業療法学全書 [改訂第3 版] 第6 巻 作業療法学3 発達障害」 協同医書出版社		
参考書	①上杉雅之 監修、辛島千恵子 編集 [2016 年] 「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版		
履修上の留意点	本講義は特に、人間発達学1・2、運動学2、作業療法評価学2 で学んだ知識を基盤として行う。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	発達障害児という概念を理解し、そのリハビリテーションの全体的な構造と作業療法の果たす役割について学習する。また、様々な治療方法について、その学問的背景と繋がりについて学ぶ	事前：教科書の当該部分を読んでおく。 事後：配布資料を復習する。	講義	仙石
2	発達障害児に実際にどのようなプロセスで評価を行っていくのかを、障害特性に応じて学習する	事前：教科書の当該部分を読んでおく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
3	姿勢・移動の発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解する	事前：人間発達学2、運動学2などで学習した運動発達、動作分析について確認しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
4	姿勢・移動の発達に伴う変化を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
5	上肢機能の発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解する	事前：作業療法評価学2 で学習した上肢機能・動作分析に関する内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	中島
6	上肢機能の発達に伴う変化を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃

7	感覚・知覚の発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解する	事前：人間発達学1で学習した関連内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
8	感覚・知覚能の発達に伴う変化を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：前回の配付資料と学習内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
9	遊びの発達とその評価方法を学習し、作業療法と遊びとの関係を理解する	事後：配布資料を復習する。	〃	中村
10	認知機能の発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解するとともに、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：人間発達学1で学習した関連内容を復習しておく。教科書 pp4-6 「2-2Piaget-知的発達の研究」を読んでおく。 事後：配布資料を復習する。	〃	中島
11	言語発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解する	事前：人間発達学1で学習した関連内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
12	言語発達に伴う変化を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：前回の配付資料と学習内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
13	社会性や行動の評価の視点と方法を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：人間発達学1で学習した関連内容を復習しておく。教科書 pp20「応用行動分析理論」を読んでおく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
14	発達障害作業療法で用いられるその他の評価について学習する	事前：配付資料を確認しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
15	まとめ：症例に必要な評価計画を立案する	事前：これまでの学習内容を確認しておく。	〃	〃